



第 53 回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、片田 洋志さんにご紹介いただいたこの方は、「農業から心をつくり・つなげるスゴイ人」とのこと。インタビューは^{はじ}栞 志帆でお届けします。

【今回のスゴイ人】

五粒に種

南竹 亜紀さん



今回は、三年前曾於市に移住し、末吉町に新しくジエラート店をオープンされた南竹亜紀さんにお話を伺ってきました。

ご出身は福岡県北九州市。高校卒業後は作業療法士になるため専門学校へ進学しそこから10年ほど作業療法士として働いていた南竹さん。ご主人との結婚を機に鹿屋市に移住します。

曾於市へドライブがてら買い物をするなかで、野菜の鮮度の高さ、おいしさを感じ、子育てをするなら自然の豊かなところが理想だったため曾於市に移住を決意します。移住後、ハローワークで農業人材を育成する職業訓練を見つけ半年間たからべ森の学校で農業について学ぶことに。

「初めて農業に触れて、廃棄される農産物の多さに衝撃を受けたんです。畑に想像以上に野菜が捨てられていて驚きました。」世界では20〜30年後食料が足りなくなるといわれているのに現状では廃棄す

る野菜が多いと知ってなにか少しでもできることはないかと考えるようになりました。

そこで、同じ考えをもった同期の持留さんと協力し、廃棄物を出さない野菜の生産・加工への挑戦が始まります。

「曾於市の野菜で曾於市にないものを作りたい。あと卵アレルギーの娘のために卵なしのジエラートを作っちゃおうってなったんです」

そうして「五粒に種」という屋号のジエラート店を開業。ことわざで生態系との共生を意味する三粒に種に「地域」と「未来の子供たち」のためのお店になるように願いを込めて「五粒に種」と名付けました。

地域野菜を使い子供からお年寄りまで食べられる、ここでしか食べられない味。ジエラートを通して地域交流・地域活性。曾於市の農業を広めながら「食品ロスについて一緒に考えるきっかけになればいいな」と話してくれました。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

曾於市への移住をきっかけに農産物の廃棄問題に目を向け、未来の為に今自分達ができる事を一步步取り組む姿勢。私も考えるきっかけを作って頂きました。



五粒に種

曾於市末吉町深川 4651-1
☎ 050-3748-5222

Instagram



協力隊の今日この頃

お久しぶりです。地域おこし協力隊の枡です。二年目も目前となり、いよいよ活動が動き出しました。今年度より児童クラブにて子供達の農業体験を実施します。種まきから収穫・販売までを体験し、曾於市の主産業でもある農業を身近に感じてもらいます。農業の魅力を感じ子供達にとって職業の選択肢のひとつになればと考えます。また諏訪方の空き地をトマランドと名づけ、ソバージュ栽培を始めています。これは露地で野性的に育てる栽培方法です。枝葉は伸ばし放題でまるでジャングルのようになりますが、人手や設備投資を少なくすることで低コスト高収益な農業を目指します。子供から大人まで楽しく緑のトンネルをくぐりながらトマト狩りができます。トマランドが曾於市の新スポットになるように頑張ります。近くを通った際は覗いてみてください。

TOMALAND



末吉町諏訪方7995番地でトマトのソバージュ栽培を始めます。ぜひお立ち寄りください。

